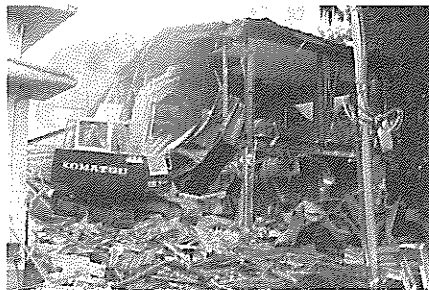


CBC NEWS



中央聖書学校の学生寮・図書館の改築に先立って、五月下旬より図書室と福音出版社の建物の解体作業が行われた。

改築工事始まる

CBC NEWS

vol.11

解体作業が始まると、学生、教師たちはしばしその光景に見入っていた。

図書室の二階は祈祷室として使われていたため、特に感慨深いものがあつたようである。解体作業は約二週間ほどで終了し、周辺の木々も伐採されてさら地となった。

今後は埋蔵文化財調査を経て、十月から、食堂、舎監室、祈祷室を含む男子寮・女子寮の建築が始められる予定である。

学生寮の建築が完成した後、旧学生寮は解体され(九十九年五月の予定)、九十九年九月からチャペルと小教室を含む図書館の建築と、職員宿舎の建築が進められる。その後、現校舎と教団本部棟の改築工事が行われ、完成予定は二〇〇〇年八月となっている。

新学生寮の収容人数は男女合わせて六十四名、食堂は八十八席となる予定。また、新図書館の書庫は二万冊が収容可能となり、閲覧室はコンピ

ューターコーナーを含め、三十二席設けられる予定である。新図書館の二階はチャペルと小教室になり、チャペルは約百十席設置でき、小教室の可動式の壁を取り払えば三百十二席が設置可能となる。

改築工事に伴って、現在図書室は神学校のチャペルに移動し、毎朝の礼拝は中央聖書教会の宣百ホールにおいて行っている。毎週水曜日の祈祷会は、男子寮のサロンにおいて行われている。

また、学校運営委員会においては、二十一世紀を視野に入れ、学生のニーズに適應したカリキュラムの設定等について討議が進められ、新たな転換が計られている。

今後さらに、中央聖書学校が牧師・伝道師の訓練、養成機関として用いられることを望みつつ、新たな方向性に大きな期待と祈りの支援が求められる。

静心

先日、永年に渡って折り込まれてきた祈祷室が、改築工事に伴って解体された。我々在校生はもとより、数多くの緒先輩方が祈りを積んでこられた場所である。

その中には、ヤコブのように神と格闘するような激しい祈りもあつたに違いないし、エレミヤのように涙をもって祈られたこともあつたであろう。

私たちはこの祈りによって、全能の神が今も生きて働いておられること、そして確かにその神が、自分を愛し、この伝道の務めに召して下さっているのだということを確認するのである。

今年の入学式に於いて、北野校長は「聖なる習慣」と題して、ダニエルやヨブのように、日常生活の中で神と一対一となる、習慣を持たなければならぬと語られた。

祈祷室はなくなつたが、私たちは常に、自分の生活の中に「奥まった部屋」を持ち、「祈祷室」とし、神との交わりを絶えず持つていかなければならない。

CBC NETWORK

・四月九日にキリストの受難を覚えて、学生たちは断食を行い、男子寮と食堂において、それぞれ自主的に賛美と祈りのひとときを持った。

・四月二十四日に佐布正義前校長の慰労会が開かれた。

・ナオミ・ダウディー師による関東聖会に引き続いて、五月六、七日の二日間、関東教区主催の教職研修会が開かれ、学生たちも出席し、有益な学びの時を持った。

・五月二十五日に、CBC運動部主催のスポーツ大会が滝野川体育館で行われた。学生、教師たちは汗を流して、日頃の運動不足を解消した。

・今年度より、神学校のチャペルにおいて教団の理事の先生方にもメッセージをして頂くことになった。六月二日に学校理事長、杉本俊輔師、三日に教団理事、村上密師が講壇のご奉仕をされ、学生一同は良き励ましを受けた。

・学生主催の特別伝道集会在六月十二日に行われた。前日には、学生たちの自主的な活動によって、連続二時間半の祈りと賛美の集会、P・P・Hが開かれ、熱い祈りが献げられた。

・海外宣教大会が六月二十四日に宣百ホールにおいて開かれた。中国宣教をテーマとして、アブラハム・リウ師を講師に迎え、一同は宣教の重荷を新たにされた。

・六月二十七日より夏期派遣が始まった。学生たちは八月二十三日までの約二ヶ月間、全国の教会に遣わされる。またこの度、海外伝道部との協力により、二名の学生が海外宣教訓練生としてフィリピンに派遣されることになった。

・六月二十九日から七月一日に、教師研修会が浜名湖において開かれた。「二十一世紀のCBCを考える」というテーマで発題、討論が行われた。

・中央聖書学校の夏期研究科が七月七日から十八日まで開かれる。元APTS学長、現教育巡回宣教師のエバレット・マツキー二師が「教会管理学」を担当される。また、篠原教会牧師の伊藤顯榮師が「新約釈義」を担当される。

・神学校建築募金PRのためのビデオ、「翔べCBC」が制作され、全教会に配布された。

後援会のご案内

中央聖書学校が教団の伝道者養成機関として発足以来、すでに四十八年を数えておりますが、その間多くの方々のご協力と献げ物と奉仕によって幾多の伝道者、働き人がこの学舎から輩出されたことは感謝であります。

さらに学校の設備に充実とゆとりのある運営がなされるためには、多くの方々のご賛同を必要としております。どうぞこの点をご理解いただき、是非本会にご入会くださるよう心よりお願い申し上げます。

中央聖書学校後援会

会長 山田 亘

後援会入会要領

個人会員 一口年五千元
法人会員 一口年一万円

☆連絡は中央聖書学校内後援会宛にお願いいたします。

編集

後記

神学校に入学して間もなく、身体の弱かった父が入院した。未信者の父が、かなり悪い状態である聞いて、つらくて仕方がなかった。すぐに帰れる距離でもなく、ただひたすら祈るしかない、そんな中で多くの学生が励ましてくれた。今まで苦手だと思っていた人たちも、冗談でからかいながら笑わせようとしてくれていたのに気付き、キリストにある愛と慰めに心から感動した。きっとこの人たちはりっぱな伝道者になるに違いないと思った。そんな中、ここで初めて学んだことは、主に信頼する事と、隣人を愛することだった。(Y・S)

編集スタッフ 新聞部部員

別宮 健一 田中 千香子

三宅 規之 菅原 洋子

編集責任者 ダビデ・ハイムス

事務局 中央聖書学校

豊島区駒込三二一五二〇

FAXTEL 〇三三九一八四九二五

〇三三九一八四〇六四

シリーズ 献身 Vol.11



わたしの献身

佐布 正義

中央福音教会牧師
中央聖書学校教授

「...あなたがたのからだを、神に喜ばれる、生きた、聖なる供え物としてささげなさい」(ローマ十二章一節)

第二次世界大戦の終わった一九四五年の夏の終わり、旧国鉄品川駅から焦土化した東京の自宅のあったとおぼしき場所にたどり着いた時、実感となった「喪失感」が、やがて「献身」に導かれる原点となっていました。そこで受けた衝撃は、ただそれまでの生活様式を包むすべてが失われたというばかりでなく、絶対的権威、国家の崩壊、世界観、価値観の喪失、加えて自分自身の生の意味を失うことをも含んでいたからです。その地(時)点から、真理の探求の旅がはじまりました。先ずは、生きることへの意欲を見出すことから始まり、何らかの生き甲斐を見つけないければなりませんでした。

そんな時に、バイブル・ク



石津真咲

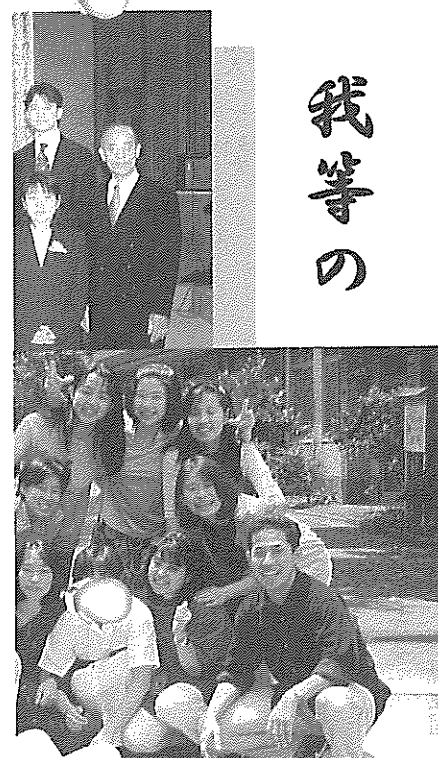
「心の教育とは何か？」中学生の犯罪が報道される度に投げかけられた問題を、キリスト教主義の幼稚園という職場で考えさせられました。十年もすればここにいた子どもたちも中学生。その時彼等はどうのような環境にいるのだろう。今必要なのは、単なる情操教育ではない心の教育であり、それはイエス様の愛を子どもたちと、彼らを育てる大人たちが知り、救われる事ではないか。与えられた答えに、全てが主のご計画であり、何があっても主が共にいて下さるという約束も加えられ、新しい歩みを始められることに感謝いたします。



柿崎光一

私が伝道者になると告白したのは、五歳の時でした。担任の保母から、将来の夢を聞かれましたが、その頃の私は何も考えておらず、ただ「牧師」と答えました。何故そう答えたのか分かりませんが、考えられる理由は父の仕事であるということだけでした。いつしか、神様からの召しにも逆らって、献身することにも恐れを覚えていました。その私に、神様は、第二歴代誌二十章十五、十七節の御言葉を与えて下さいました。

我等の



今では五歳の時に「牧師」と答えた本当の理由、いえ、答えさせて下さったのは、聖霊様だったのだと確信しています。



加藤明子

私は三年半程前に聖霊のバプテスマを受けました。そしてステパノのように主を証し続ける者でありたいと願うようになり献身の為に折ってしました。イザヤ書四十章三、五節の御言葉を主から与えられ現代の人々がどれ程福音に飢え渴いているのかを知らされ、それらの人々が御言葉を

必要として迫ってくるのを見せられました。愛を見直す時代を迎えて、今こそ神の愛、信仰が必要であると思わされます。心を潤すのは人ではなく、主御自身がなさるのであると信じ、語り告げる者となる為に献身を決意しました。「主の栄光が表されると全ての者が共にみる。」主に従って歩みます。



菅原洋子

私が神様の召しを受けたのは、今から三年程前のことです。主日礼拝の中で、聖歌の五八二番「すべてを捨てて従いまつらん」という歌詞が、深い聖霊の感動と共に心をとらえ離れなくなりました。

それから後に、さらに折り続けて行くなかで、ヨハネ二十一章一五節以降「あなたはこの人たちに私を愛しま

北陸キャラバン伝道

中央聖書学校

四年 沼田 千晴

三月十三日から三月二十三日までの十日間、三年生十名は北陸キャラバンに行きこ奉仕させて頂きました。

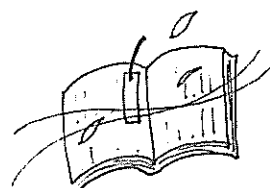
北陸地方は浄土真宗で伝道が難しいと言われている地域ですが、私は十日間の中で良き訓練と学びの時が与えられ、また様々なことを教えられる感謝しています。

私は福井神愛キリスト伝道所、小矢部キリスト教会、氷見キリスト伝道所で主にトラクト配布と訪問伝道をさせて頂きました。キャラバン中に、私は「時が良くて悪くても御言葉を宣べ伝えなさい」と御言葉が与えられて、励ましを受けました。

教えられたことは、福音を宣べ伝えることも大切ですが、それと同時に人とのつながりも大切であるということです。

訪問伝道をする際に拒否をされる家庭もありましたが、ほとんどの家庭は教会案内のチラシを受け取って下さり、そればかりではなく、初めて出会う人々と話をする事ができました。福音を伝えることができなかったこともありましたが、出会う人たちがどのような状態の中にいるのか、またイエス・キリストに対してどのような思いでおられるのかを知ることができ、また福音も語ることができて感謝しています。その中で人々との信頼関係が非常に大切であることを教えられました。

他にも教えられたことが様々ありますが、キャラバンで教えられたことをこれからも生かしていきたいと思えます。また、聖霊によって主の有用な器へと変えられていきたいと願っています。



SINNYUSEI

SINNYUSEI

SINNYUSEI

SINNY

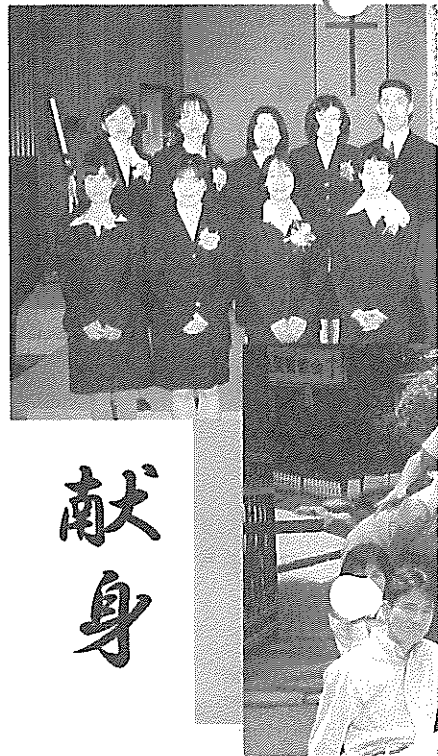
主の尊き御名を賛美します。満開の桜の中、入学式を迎えた日を思い出し、主の守りによって今日まで導かれていくことを心から感謝します。「朽ちる食物のためではなく、永遠の命に至る朽ちない食物のために働くがよい。」との主の声に、自分の弱さ、足りなさを感じながらも、主が導いて下さるならとの信仰を持ち献身へと至りました。進む道には困難な時もあるでし



高木幸子

すか。私の羊を牧しなさい。」ヨハネ十五章十六節「わたしがあなただがたを選び、あなたがたを任命したのです。」とさらに御言葉をもって強く招いて下さいました。踏み出すまで多くの戦いもありましたが、今は喜びでいっぱいです。

NEW



献身

FACE

ようが全てを主に委ね、主に喜ばれる伝道者となる為に日々整えられたいですし、大胆に御言葉を語れるように、聖霊に満たされ続けたいです。全ての栄光を主に帰します。ハレルヤ。



高谷満世

幼い頃から献身の思いを与えられ、多くの方々が祈って下さいました。しかし、牧会の厳しさを目の当たりにして、献身に対して大きな恐れや不安を抱き、神様から迫られる度、逃げ続けていました。し



筒井華子

私は高校生の時に教会へ行き始め、イエス様を受け入れ

かし、昨夏、導かれたC A キャンプで、主は「あなたの恐れや苦しみはすべて十字架で私が負った。恐れずに従いなさい。」と語り、イザヤ書四十章三節の御言葉をもって私を押し出して下さいました。何も持たない、弱く小さき者を、確かな導きをもって召して下さった神様に信頼し、主の御心を第一に求めつつ、失われた魂に福音を伝えたいと願います。



ホン ジュヨン

九十五年から特に日本のために祈り、伝道する機会が与えられ、それを通して日本に対するビジョンを抱きました。さらに祈る中で、主は「飢えた者に心を配り、悩む者の願

ました。そして、聖会で「収穫は多いが働き人が少ない。」と語られ献身の招きがあり、それに答えました。しばらくして「出て行って福音を宣べ伝えなさい。」という言葉を受けたのですが、その時は「待つ」ということを学びました。その二年程後に短大で神学を学び、そこでビジョンが与えられました。更に二年間が過ぎ、自分のこれからの道と神学校のことを思い巡らせていると、ヘブル書三章七〜八節の言葉が与えられそれに答えて、進みました。

★★★ 教職インタビュー Vol. 3

上原和雄師

今回は、「キリスト教弁証論」と「教会史」を担当されている上原和雄先生にお話を伺いました。先生は八王子キリスト教会で牧会をしておられる、熱い先生です。テレビの金八先生の雰囲気がある先生です。

新聞部：授業でこれだけは伝えたいと思うことはありますか。

上原師：教会史ではキリストを通して歴史を見ることが、どんなに優れた視点かということです。これに尽きると思います。創り主であり、歴史の支配者だからね。弁証論では、キリスト信仰の内的確信を持つということ。そういうものを築いておくということが大切だと思う。信仰の土台をしっかりとしたものにする。キリストの歴史性、つまり、イエス様が実際にいられたということ、そして、私たちの罪のために死なれ、甦られたことが、事実であるということ。世界は神の創造によって成ったということ。証拠というものをしっかりさせることが、私たちの信仰の土台であり、確信になるということです。



新聞部：学生を見て、昔の学生と比べて違うなあと思われることはありますか？

上原師：やっぱり、あるねえ。知的には豊かになっていると思うけれど、考える力が低下していると思いますね。

新聞部：それは何が原因だと思いますか？

上原師：今は、自分なりに生きるという姿勢が、昔の人より少ないと思います。よく日本人は横並びの考え方といいますよね。周りを見て生きるということが強くなっていますね。周りの人を見て自分のライフスタイルを決めるというね。これが考える力をなくしているんじゃないかな。自分なりに生きる、という人が少なくなっているのじゃないかな。統計的だけだね。

新聞部：昔の学生時代の思い出、エピソードなど何かありますか。

上原師：そうねえ、作業の時に、使命感を持ってするような人もいたし。さぼる人もいたね。必ずネクタイをする人もいたよ。

新聞部：えっ、ネクタイですか！

上原師：彼にとって作業は神聖なものだったのだろう。そんな変わった人もいましたねえ。作業服にぼろのネクタイしてね。

新聞部：これからのCBCに期待することは？

上原師：枠に縛られない伝道スピリットをもった人が出て欲しいと思いますね。それには、伝道実習面が足りないと思う。プライベートで、また夏期・冬期の派遣において、一人の魂に重荷をもって、魂をどんなことをしても救わなければいけない。そういう伝道スピリットを何よりも大切にしていって欲しいと思いますね。

それは、裏付けとして祈りが必要になりますね、やっぱりね、伝道しないで祈れって言っても祈れないもの。伝道の働きをしながら祈るということです。これからの課題は祈りじゃないでしょうか。朝の祈りは、日課として必ずやって欲しいね。全体で強制できないなら、自分自身で強制して、早天の祈りは毎日すべきだと思いますね。それが鍵ではないかな。

SINNYUSEI

SINNYUSEI

SINNYUSEI

SINNYUSEI

SINNYUSEI

SINNYUSEI

SINNYUSEI

SINNYUSEI

- 1、入学時の年齢は
- | | |
|--------|----|
| 21-25才 | 6名 |
| 26-30才 | 4名 |
| 31才以上 | 1名 |

- 2、受洗後何年ですか
- | | |
|-------|----|
| 2-5年 | 2名 |
| 6-10年 | 7名 |
| 11年以上 | 2名 |

- 3、入学直前は
- | | |
|-----|----|
| 社会人 | 9名 |
| その他 | 1名 |

- 4、献身を決意してから実際の入学まで
- | | |
|------|----|
| 1年以内 | 3名 |
| 2-5年 | 6名 |
| 6年以上 | 2名 |

- 5、献身することに関して当初家族は
- | | |
|-----------|----|
| 賛成 | 7名 |
| 反対 | 1名 |
| どちらとも言えない | 3名 |

- 6、献身について最初に相談したのは
- | | |
|----|----|
| 牧師 | 7名 |
| 家族 | 3名 |
| 友人 | 1名 |

中央聖書学校学生募集

主の御声を聞いています者よ、来たれ！
 入学資格：受洗後2年以上を経た忠実な教会員
 高校卒業以上
 住 所：豊島区駒込3-15-20
 電話番号：03-3918-4925
 ※入学案内は所属教会牧師にお申し出下さい。

データで見る新入生

- 7、今考えている卒業後のビジョンは
- | | |
|----------|----|
| 国内教会の牧師 | 8名 |
| 巡回伝道者 | 1名 |
| 海外宣教師 | 2名 |
| まだ考えていない | 1名 |

- 8、入学に関して一番不安だったこと
- | | |
|-----|-------|
| 経済 | 2名 |
| 寮生活 | 4名 |
| 勉強 | 1名 |
| 健康 | 1名 |
| その他 | 特になし |
| | 卒業後 |
| | 家族のこと |

- 9、学費・寮費等は
- | | |
|-----------|----|
| 全額母教会から | 2名 |
| 母教会と親の仕送り | 3名 |
| 母教会と自分の貯金 | 4名 |
| その他 | 1名 |

- 10、一日の内で一番恵まれる時は
- | | |
|--------|-----------|
| 早天祈祷 | 2名 |
| チャペル | 6名 |
| 祈祷会 | 4名 |
| 学生伝道集会 | 1名 |
| その他 | たくさん祈れること |

- 11、学生生活で一番つらいこと
- | | |
|------|----|
| 朝が早い | 2名 |
| 人間関係 | 2名 |
| 特になし | 6名 |
| その他 | 1名 |

- 12、ズバリ！入学して
- | | |
|---------|-----|
| 良かった | 10名 |
| まだ分からない | 1名 |



三宅真嗣

十七歳の時、イエス・キリストを個人的な救い主として受け入れました。その時、献身の思いが与えられ生涯を主に捧げようと決心しました。それから、十一年の歳月が流れましたが、主は真実なお方

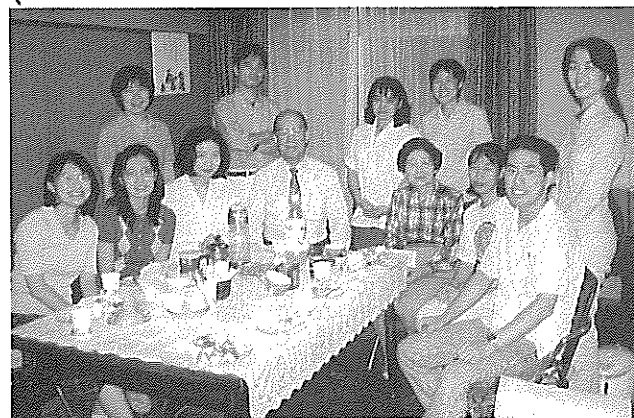
いを満足させるなら、主は絶えずあなたを導いて、あなたの思いを満たし、あなたの骨を強くする（イザヤ五十八章十二節）と語られ、この御言葉で、私は日本の宣教師になることを確信しました。そして、もともと日本の文化の中で学びたいと思い、折リながら神様に求めた時、主は訓練の場としての中央聖書学校に導いて下さいました。滞在のためにも問題がありましたが、順調に道が開かれました。ハレルヤ。



森下友子

「栄光を主の御名にのみ帰するために。」生かされていると教えられてから、八年がすぎました。フルタイムの献身を決心しながらも「伝道すること」を恐れていた私を、主は忍耐強く導き続けてくださいました。「子をもって喜ぶ母とされる。」の御言葉通り、私の側に救いに至る友だちを

で、私の今までの歩みを守られ、こうして、神学校での学びに入る事ができました。振り返ると、主がいかに恵み深い方であるか思い知らされていきます。伝道生涯の中で涙の道を歩む時もあるでしょうが、まず、自分が福音の恵みを受ける者になりたい（I コリント九章二十三節）という思いで献身を全うしたいと願っております。



与え、霊的に育てる喜びを味わせてくださいました。その姉妹と主の働きを共にさせて頂きながら、何度も感謝を献げました。天の御国で最高の礼拝を献げる時まで、「救われた魂」というこの世での最高の献げ物をもって、主の御名にのみ栄光を帰していきたくです。



山本純子

私は、クリスチャンホームで育ちましたが、高校生位の時、自分勝手に歩みだし、次第に神から離れた生活をするようになりまして。そんな中で、未信者の人と出会い、結婚しましたが、神から離れた教会にも全く行かず、幸せになれるはずもなく離婚しました。二人の子供をかかえ、死んだほうがましだと思える程苦しんだその中で、主は父親のように私を迎え入れ、再び愛を注いで下さいました。主がいなかったら、今の私の人生はありません。これからはただ、主の為にだけに生きることで、今の私の心からの願いです。

